

# 青森県偕行会

## 「忠霊塔を守る会」発足に尽力

青森県偕行会長

稲村 孝司 陸自75

7月23日「弘前忠霊塔を守る会」が発足した。同塔は戊辰戦争から大東亜戦争までに戦死した青森県人約2万9千名を悼む巨大な塔である。

青森県偕行会は、毎年8月第1土曜日に、同塔周辺の清掃奉仕を、現職自衛官、隊友会員及び市民ボランティアらと協働で行っている。毎年、周辺は綺麗に清掃されるものの、塔内に保管されている遺骨約2千余りの骨壺と無縁仏は、管理が行き届かず塔内に散乱し、段ボールなどに詰められたままになっていた。これでは尊い命を捧げられた戦没者に申し訳ないとの思いから、同会設立に向けて令和4年9月から準備を進めた。

同会は、塔を管理する宗教学法人「弘前仏舍利塔」を中心として、実行担当者と、偕行会会員である三上会員が副会長兼ねて事務局長、理事として小職（パンフレット作成等）、田中会員（遺骨整理等）、野村会員（イベント等）及び七戸会員（遺骨整理

等）の5名が、他の7名の遺族会、隊友会、家族会、郷友会等の会員と共に参画した。

9月の準備委員会の発足では、宗教学法人「弘前仏舍利塔」の管理では、慰霊行事、遺骨・建造物の維持管理、資金面で改善を要する事項、会則の制定、設立の準備事項及び業務予定について話し合われた。

12月の第2回準備委員会では、役員組織表、塔内及び外観看板等の改修レイアウト、未整備遺骨の整備要領の確認を行い、遺骨の納め方の検討、ご本尊と仏舍利（釈迦の分骨）、玄奘三蔵法師の霊骨の拝顔（金庫を解錠して確認）、発会式典の時期が話し合われた。

令和5年に入り、2月の第3回準備委員会では、青森県護国神社所蔵の祭神2万9千75柱名との符合、骨壺の清掃・地域区分、骨壺棚のレイアウト確認を行い、会の名称及び会則を決定し、忠霊塔及び弘前陸軍墓地説明看板の必要性、パンフレットの内容が話し合われた。

3月の第4回準備委員会では、名称・会則・パンフレット素案の決定、骨壺整理棚と内部塗装、祭神銘板の印字化作業依頼、約2020の骨壺

の戦没者名の印字化を確認し、塔内の全般配置、骨壺整理棚及び塗装の経費見積、今後の内部電気系統、看板作成、入口ドアの作成、骨壺の配置要領（戦争区分・地域区分）が話し合われた。

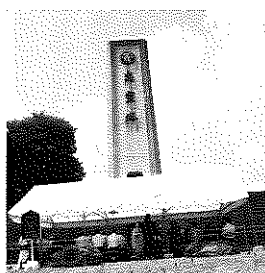
雪融けが進み厳冬期を過ぎた4月は、塔内部の改修工事を本格化した。

5月の第5回準備委員会では、納骨堂の塗装、納骨棚の作成、電気(LED化)、祭神銘板及び収納壺の戦没者名の印字化を確認し、発会式の日時、塔内の配置（各室の役割）、塔外の説明看板の配置、パンフレット作成、発会式の実施要領が話し合われた。なお、案内板を刻字で作成することから、当会工藤会員（刻字看板作成）が新たに理事として加わった。

6月の第6回準備委員会では、工事の進捗状況、説明看板には英訳文も掲載、刻字による塔内案内板の作成、入口の石の門柱が確認され、発会式の細部要領、具体的に準備する事項、経費使用状況及び今後の業務予定が話し合われた。

そして、7月23日午前11時から、弘前忠霊塔で弘前市を代表する長勝寺、久渡寺、本行寺及び川龍院の各

住職による慰霊祭を実施、引き続き櫻田宏弘前市長、木村次郎防衛大臣政務官、阿部広悦英霊にこたえる会青森県本部会長ら約60人の参列を得て発会式が行われた。



発会式の様子

同式には、当会帯川会員、渋谷会員、間山会員、櫻庭会員及び中村会員の5名が、引き続き祝賀会食にも参加した。

その様子は、翌24日に地元新聞東奥日報及び陸奥新報の各一面に大きく報道され、県民及び市民に大きな関心を呼んだ。

東奥日報では、タイトル「戦争の記憶 後世へ 2万9千人用う「弘前忠霊塔」守る会が発足 維持「協力」を」と共に忠霊塔を背に「守る会」設立の趣旨を説明する三上会員の写真と、納骨堂内骨壺棚前で櫻田弘前市長に対し、忠霊塔を守っていく意義について説明する三上会員の写真が掲載された。



「東奥日報」掲載記事

陸奥新報では、タイトル「平和の尊さ後世に 守る会発足、存在周知 益や彼岸本堂公開 戦没者供養弘前忠霊塔」と共に忠霊塔と式典会場のテントの写真と本堂前に掲示された青森県戦没者銘板を確認する参列者の写真が掲載された。



「陸奥新報」掲載記事

約11カ月の短期間で、ご遺骨の散乱する塔内を見事に甦らせ、慰霊と観光の地として弘前忠霊塔を守る第一歩となった。

忠霊塔は82年前の昭和16年「弘前忠霊顕彰会」が中心となり、学生らの動員と市民の寄付金によって工事を開始し、戦後の昭和20年に完成し

た。進駐軍は忠霊塔を軍国主義の象徴としたため、「忠」の文字を梵字で覆い隠し「霊塔」とし、さらに「仏舍利」の分与を受け名称を「仏舍利塔」に変更して破壊を免れた。この偉業を成し遂げた八木橋文平弘前仏舍利奉賛会会長は、昭和27年には第2回世界仏教大会を同塔で開催した。当時の仏教界に於いては日本は独立前であり、日本での開催は夢想だにもしなかった。さらに昭和32年には、玄奘三蔵大法師の霊骨を迎えた。その八木橋会長が、弘前忠霊塔昭和の大恩人とすれば、三上知彦会員・弘前忠霊塔を守る会副会長兼ねて事務局長は令和の大恩人として後世語られる事を確信した。

弘前忠霊塔、旧弘前偕行社及び青森県護国神社（一県一社の護国神社が、青森県では県庁所在地の青森市ではなく、弘前市に所在）の三つの陸軍関連施設が揃った。また、忠霊塔にはお釈迦様の仏舍利及び孫悟空物語に登場する三蔵法師の霊骨も納められている全国でも希少な忠霊塔である。

全国の偕行社会員の皆様、是非弘前を訪ねて下さい。青森県偕行会がご案内致します。